

令和元年度学校評価 中間評価

令和元年10月

<p>本年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センター的機能の充実 6 仕事の効率化に努め、教職員の連携・協働を大切にする働きやすい職場づくり 			
項目	重点目標	具体的方策	中間評価
小学部	<p>児童の病気や障害の状態及び学習の進度に応じて学習の目標や内容を設定し、児童が充実感を味わいながら笑顔で学校生活を送ることができるようにします。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童・保護者及び医療関係者等との相談をもとに、児童の学習の進度や特性を把握します。 2 一人一人の実態に応じた学習目標・内容を設定し、効果的な学習方法と支援体制を工夫します。 3 児童とともに学習の成果を振り返り、自己の成長と課題を確認することにより、児童が主体的に自己を發揮しながら次の課題に向かえるように支援します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童一人一人の実態に応じた学習目標と学習内容を設定し、学習方法や支援体制を工夫しながら、効果的な学習ができるように努力しています。 2 校内とベッドサイド学級とをICT機器でつなぎ、児童が意見交換をしながらお互いの考えを深められるように支援しています。
中学部	<p>基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団の中で、自らの課題に気付き、その課題の解決策を考える力や意欲を養います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向での授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3 集団活動の中に意見を交わす課題を設けるなど、対話的、協同的な活動を通じた合意形成の場の設定に心がけます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒個々の学習状況を把握し、必要に応じて個別対応できる学習グループをつくり、生徒のニーズに応えるよう工夫しています。 2 WEBチャット等のICT機器を活用した同時双方向型通信での授業について、つなぐ学級数を増やし、更に集団を広げて学び合うことができるよう努めています。
高等部	<ol style="list-style-type: none"> 1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。 2 卒業後の自立を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の達成感や自己肯定感の向上につなげるため、個々の学習状況に応じた分かりやすい授業を行います。 2 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。 3 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなどを、学校生活の中で、人との関わり方を学べるように支援・指導します。 4 ICT機器を積極的に取り入れ、授業や各行事等で有効に活用することで、学習効果を高めます。 5 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員全員が生徒個々の実態を的確に把握し、幅広い視野、長期的な展望をもって適切な指導ができるように情報の共有に努め、授業等に反映しています。 2 生徒が自己の病気や心身の状況に応じて、意欲的に学習に取り組むことができるよう、褒めて伸ばす指導を推進しています。 3 学校生活全般で、職員全員が積極的に生徒に言葉がけをし、コミュニケーションの充実を図り、生徒が人との関わりを学べるように支援しています。 4 行事等を中心に同時双方向型通信システムを利用し、生徒の身体的負担を軽減することで、学習効果を高めています。 5 生徒は実態に応じた役割を担い、行事等で活躍することで、達成感や充実感を味わい、精神的な成長の一助となっています。
施設内教育	<p>名大 藤田 中京</p> <p>保護者及び医療機関等との連携を保ち、児童生徒が安心して学べるように、個に応じた指導の工夫と充実を努めます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 2 授業や行事等、さまざまな教育場面で、ICT機器を効果的に活用していきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 転入後すぐにベッドサイド授業を開始できる体制が整い、多くの児童生徒の学習空白の解消につながりました。 2 病院の協力を得て、教室の通信の無線化が進んでいます。また、通信方法の工夫で、より安定した同時双方向型通信ができるようになりました。
訪問教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の一人一人を大切に授業を実施します。 2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の興味・関心や学習の状況を把握して授業を実施します。 2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法で支援をします。 3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の学習の実態や状況を把握して、一人一人に応じた学習計画・内容で授業を進めるように努めています。 2 児童生徒の好きなこと、得意なことを把握し、興味・関心を生かした授業をすることで、意欲的に授業に参加することができるように努めています。 3 必要に応じて、病院等の関係機関とカンファレンス等の情報交換を行うことで、児童生徒が安心して学ぶことのできる環境整備の構築や継続的な学びの支援に努めています。
総務部	<p>効果的な教育活動の情報発信に努めます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校だより・校内掲示・学校ホームページ・メール配信システム等を利用して、教育活動について発信していきます。 2 保護者と教職員が連携し、PTA活動の関心を高めていきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校だよりでは、紙面の様式を見直しました。写真やイラストを増やし、学校生活の雰囲気は伝わるように工夫しています。 2 PTA研修会では、「卒業生のお話を聞く会」を開催し、19名の保護者の参加がありました。大学生や就職した卒業生から、体調管理や余暇の過ごし方など具体的な話を聞くことができ大変好評でした。今後の研修会では、保護者の交流が図れるように、連携をとって計画していきます。
教務部 自立活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒が主体的に楽しく学べるように教員の指導力の向上を図ります。 2 児童生徒の実態把握に努め、その実態に合った授業の工夫を行います。 3 児童生徒が自立を目指す上で必要な力は何か 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領全面実施に向けた授業改善に取り組み、指導力向上のため研修の機会を設けます。 2 家庭及び医療機関との情報交換を密にし、児童生徒一人一人に合った指導体制や指導方法を工夫します。 3 児童生徒が自分自身の心身の状態を見つめ、自己理解を進めたり、自己管理の力がついたりするような活動の工夫を考えます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の校務分掌と協力しながら、新学習指導要領やICT機器の活用に関して研修の機会を設定しました。 2 児童生徒の実態把握のために家庭や医療機関との情報交換に努め、指導体制や指導方法の工夫を行なっています。 3 自立活動の授業の最後には、ワークシート等を用いて、振り返る時間を設けることにより、児童生徒が成果を実感したり、今後の課題を考えたりすることができました。

	を共に考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。 4 自立活動の指導計画について、見直しを行います。	4 自立活動の指導計画について、作成手順や活用方法の検討を行います。	4 自立活動の指導計画の見直しにあたって、全職員にアンケートをとり、取組の現状や指導計画作成上の課題を集約しました。今後は、その結果を参考にして、来年度に向けた指導計画の見直しを行う予定です。
生徒指導部	児童生徒が、安心・安全に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。	1 児童生徒が安全に避難するための避難訓練を、もちのき特別支援学校と合同で実施します。 2 不審者対応訓練の内容を見直し、より実践的な訓練にします。 3 防災ヘルメットや防災頭巾を、児童生徒が手に取りやすいところに設置し、災害時に使用できるようにします。 4 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	1 もちのき特別支援学校と連携し、避難経路や避難場所等の確認を綿密に行い、両校の児童生徒が安全に避難する方法を検討しています。 2 警察署と連携し、助言を受けながら不審者対応訓練の内容の見直し、改善を行いました。 3 防災ヘルメットや防災頭巾を児童生徒が手に取りやすい場所に設置し、避難訓練で活用しました。また、防災意識を高めるために、防災学習も行いました。 4 日頃から職員間で情報共有を図り、いじめの早期発見に努めています。いじめ不登校対策委員会を開催し、いじめの防止、早期対応に学校全体で当たっています。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導の充実と児童生徒の健康管理に努め、保健指導の充実を目指します。	1 事故防止や感染症対策における職員の意識を高め、児童生徒個々に応じた緊急時の対応等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心して安全な教育環境を整えます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 日常の健康安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、健康的な生活や食習慣の重要性を周知していきます。	1 事故の再発防止のために、迅速に安全対策を行いました。AED、非常時のホース収納ケースなど、廊下で出っ張りがあり危険と思われる箇所にクッション材を取付けました。また、担架やAEDの設置場所及び扱い方、緊急時対応のシミュレーションも行いました。 2 医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 3 感染症の情報等を迅速にメールや文書で保護者に伝えることで、二次的な感染予防に努めました。また保護者対象に給食試食会を実施し、健康な食生活のあり方について情報共有を行いました。衛生面を考え、給食配膳時の健康チェックをしっかりと行いました。
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒、保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。保護者のニーズを把握し情報を提供する中で、進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、進学・就労への支援が充実するよう努めます。 3 希望する進路先に対して児童生徒の実態について情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1 中学部では、必要に応じて個別懇談ならびに進路カンファレンスを実施し、進路決定に向け、情報の提供と共通理解を図っています。高等部では、懇談会に進路担当者も参加し、保護者のニーズを把握したり卒業生の動向について参考資料を作成したり積極的に保護者への情報提供をしました。 2 中学部では、地域の特別養護老人ホームの見学や体験活動を通して、働くことへの意識を向上させることができました。高等部では、進学希望生徒対象に学校申込による模試の機会を予定しています。 3 高校や事業所、関係機関等へ進路担当者が訪問するなど、進学や就労などに関する情報収集や情報共有を通して、互いに共通理解を図り、協働への関係構築を進めています。
教育支援部	1 児童生徒の実態を踏まえ、一人一人のニーズに応じたきめ細やかな支援をするため、教職員研修の充実を図って校内支援につなげます。 2 各関係機関との連携を深め、病弱特別支援学校としての、センター的機能の推進に努めます。	1 児童生徒の的確な実態把握、適切な支援につながる教職員の研修を実施するとともに、必要な情報の提供を行います。 2 医療、教育、地域との連携を重視したセミナーを企画し、地域の教育関係者にも公開します。	1 事前のアンケートに基づき、夏の研修会を計画、実施しました。本校職員に加えて外部講師の協力をお願いし、「NHK for school 基礎セミナー」「プログラミング教材」「コラボノート研修」等、全8講座で幅広い分野の研修を実施できました。 2 センターの機能の一環として、医教連携セミナーを実施しました。第1部では、あいち小児保健医療総合センター医師に協力をいただき、「学校生活で必要な自己免疫性疾患の基礎知識」に関する講演を開催しました。自己免疫疾患に関する基礎知識を深めることができ、病気のある子どもへの指導や配慮に役立つ内容となりました。第2部では「継続的な医療を必要とする子どもたちのために学校でできること」をテーマに、参加者の質問や考えをもとに協議を深めることができました。
教育情報部	1 他の校務分掌と連携をとり、職員が児童生徒の個に応じてICT機器を使用できるようにします。 2 見やすく分かりやすいホームページを整備し、迅速で正確な情報を発信します。	1 職員から児童生徒についての実態アンケートをとり、タブレット端末を整備します。 2 ICT機器の所在を職員に分かりやすく提示します。 3 ICTの推進や技能向上に関わる研修を実施します。 4 新しいホームページビルダーに移行します。 5 レイアウトや色等、全体的なデザインを検討します。	1 1学期に教務部と連携しICT機器及び同時双方向型通信の使い方研修、夏期休業中に教育支援部と連携し、「NHK for school 基礎セミナー」「コラボノート研修」を行いました。すぐに授業で活用できる有意義な研修になりました。 2 各部、分掌等の担当者と連携をとり、予定されたホームページ更新を滞りなく行うことができました。また、新しいホームページビルダーへの移行に向けて、データの整理を行いました。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか ・防災やいじめ防止等への対策を行い、児童生徒の実態に合わせ安全・安心に留意した支援ができたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実ができたか 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか	